

平成 27 年度 教員活動自己点検・評価報告書 記載内容のまとめ

※各項目ともに「C 積極的でなかった」の自己評価に対する理由を記載

※同様な内容は同一記載として一括

1. 教育活動

(1) 授業活動

- ・前年度と基本的にカリキュラム、授業内容の変更を行わなかった。

(2) 実習指導活動

※C の自己評価無し。

(3) 教育改善活動

- ・学生評価のみならず国家試験合格のための効率化を図り、昨年引き続き授業後半に前・後期とも問題演習を導入した。ただ、これがどのようにレベルアップにつながったかは評価できていない。

(4) 研究指導活動

- ・特に学生の卒業研究指導には関与しなかった。

2. 研究活動

(1-1) 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

- ・共著による業績のみで、筆頭著者となった論文は作成できなかった。
- ・本年度は著書執筆や依頼原稿、学術論文・等、個人としてほとんど作成できなかった。
- ・関節拘縮に関する研究データの総括について進行中であるが、現時点では発表には至っていない。継続的な研究データの収集と総括のあり方について検討を続ける。
- ・共同研究者、共同著者としての活動を行った。今年度の筆頭著者としての学術論文は発表していないため。
- ・論文投稿までには至らなかった。(同様記載 3 名)
- ・本年度は、時間的・労力的に教育活動に重きを置いたため、研究発表は行うことができませんでした。次年度は、本腰を入れて研究発表に時間を割きたいと思います。
- ・論文 5 編 (共著)。英論文 3 編、和論文 2 編。
- ・科研の研究は、調査に時間を費やしており、完成には至っていない。経過中の成果を演題発表し、発表後に学術誌に投稿したが、本年度の掲載には間に合わなかった。臨床研究も並行して執筆していたが、これも投稿中である。
- ・職免日に臨床研究を行っているが、本年は関連病院も含め全て新人に入れ替わったため、

その臨床教育に時間をとられ、共同研究で活動した以外はほぼ何もできなかった。次年度に向けてのテーマなどは決まってきたので、来年度はできるように努力したい。

- ・今年度は新たに研究計画をたて、調査データ収集の期間であったため、発表には至らなかった。
- ・学生対応や広報活動に費やす時間が多く、研究発表活動は行わなかった。
- ・担任としての学生指導，講義準備，国試対策準備，委員会活動などにより時間的な余裕が無い。
- ・本来の業務でいっぱい。
- ・年度当初は学術研究活動を試みたものの、学内業務の増加で持続的な研究を積み重ねることが困難であった。
- ・副学長業務、研究科長業務、及び 8 名という異常な大学院生担当により、加えて、本学の認証評価業務、他学の認証評価審査業務により、研究どころではなかった。この教育研究以外の業務負担が改善されなければ、研究は全くできない。大学人は、社会に還元する研究活動も大きな使命であるため、業務負担の改善が望まれる。また、異常な倫理審査も改善しなければ、研究は前に進まない。

(1-2) 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

- ・今年度は、教科書の依頼原稿は 2 本執筆したが、学術論文は完成させることができなかった。
- ・共同研究としては、「着地動作」というテーマに引き続き取り組み、質の高い研究が行えていたが、筆頭著者での業績がない。
- ・本年度は著書執筆や依頼原稿、学術論文・等、個人としてほとんど作成できなかった。
- ・従来より協力をいただけてきた施設は法人組織自身の変更と改組により、協力をお願いすることが困難な状況に陥っている。また、研究協力者も所属が分散しその構成についても再構築が余儀なくされる事態となっている。現在まで継続してきた関節拘縮に関する臨床的研究を続けるためには医療施設への協力依頼と研究協力者を新たに依頼する必要が生じている。
- ・平成 27 年度の投稿論文は前述した共同研究論文のみである。
- ・学術論文投稿までには至らなかった。(同様記載 3 名)
- ・本年度は、時間的・労力的に教育活動に重きを置いたため、研究発表は行うことができませんでした。次年度は、本腰を入れて研究発表に時間を割きたいと思います。
- ・研究活動は遅れているが、詳細なデータが得られているので、集大成として、研究成果を発表する予定である。
- ・人工内耳医療も新たな局面を迎えており、より細やかな検証が必要になっている。現在専免の臨床には卒業生が 2 人共に人工内耳リハビリ担当として在籍しており、彼女らの教育の一環として研究指導を行いつつあるところ。次年度に向けて、倫理審査にかかる書

類の作成指導中で、これにより世界的にまだ検証がなされていない事項の検討ができることになる。また、日本語での論文作成も進行中で、困難な条件のもと成功した事例報告となる。

- ・実践報告レベルにとどまった。
- ・今年度は新たに研究計画をたて、調査データ収集の期間であったため、論文との投稿も行っていない。
- ・学生対応や広報活動に費やす時間が多く、研究発表活動は行わなかった。
- ・本来の業務でいっぱい。
- ・年度当初は学術研究活動を試みたものの、学内業務の増加で持続的な研究を積み重ねることが困難であった。
- ・そんな時間はない。

(2) 学会等における研究発表活動

- ・共同演者としての業績しかないため。
- ・学術講演、学会発表ともに活発に行えなかった。(同様記載 3 名)
- ・第 36 回医療体育研究会/第 19 回日本アダプテッド・体育スポーツ学会 第 17 回合同大会において、共同 1 演題を発表した。
- ・本年度は、時間的・労力的に教育活動に重きを置いたため、研究発表は行うことができませんでした。次年度は、本腰を入れて研究発表に時間を割きたいと思います。
- ・学会発表 1 件 (共同演者)。
- ・臨床指導に手一杯であり、研究活動に取り組んでいない。
- ・日本公衆衛生学会での発表のみの活動であり、積極的な研究活動に取り組めなかった。
- ・大阪府作業療法学会で学術部の研究会活動 (研究計画、データ収集まで) の報告を実施したのみである。
- ・学生対応や広報活動に費やす時間が多く、研究発表活動は行わなかった。
- ・担任としての学生指導, 講義準備, 国試対策準備, 委員会活動などにより時間的な余裕が無い。
- ・本来の業務でいっぱい。
- ・年度当初は学術研究活動を試みたものの、学内業務の増加で持続的な研究を積み重ねることが困難であった。
- ・学会に出張する暇、研究する暇はない。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

- ・科学研究費若手 B が継続課題であったため、それに集中するために今年度の新規申請は実施しなかった。
- ・積極的な取り組みとは言えなかった。

- ・今年度は、競争的資金獲得の申請が出来なかった。(同様記載 8 名)
- ・科研費の申請予定であったが、申請を見送ったため。
- ・協力施設及び研究協力者の目処が立たない状況のため、申請は見送っている。
- ・申請していない。新たな研究計画案を作成する際において、申請の必要性を検討する。
- ・今年度は申請時期と所用が重なり、申請できなかった。
- ・「一般就労における知的障がい者の早期離職を抑制するシステムの構築に関する研究」
2014 年～2016 年、科学研究費補助金 基盤研究(C), 課題番号 26380811 研究代表者 (関西福祉科学大学 福井信佳准教授) の共同・分担研究者として参加しておりアンケート調査の実施、インタビュー調査の準備等に追われている状況であるため競争的資金の申請は行っていない。
- ・学生対応や広報活動に費やす時間が多く、研究発表活動は行わなかった。
- ・担任としての学生指導, 講義準備, 国試対策準備, 委員会活動などにより時間的な余裕が無い。
- ・本来の業務でいっぱい。
- ・年度当初は学術研究活動を試みたものの、学内業務の増加で持続的な研究を積み重ねることが困難であった。
- ・そんな暇はない。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

- ・国・府・市町村等の委員会への参画の機会は無かった。(同様記載 12 名)
- ・国、府、市町村等の委員会には参加していない。厚労省共催、医療研修推進財団主管：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等教員講習会 運営委員・講師のみ継続参画した。
- ・森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念を踏まえたまちづくりへの協力に向けて、関係会議に出席した。
- ・国・府・市町村等の委員会への参画機会がなく、積極的な働きかけも実施しなかったため。
- ・学内で学生対応や広報活動に費やす時間が多く、行政課題に対応した研究・提言を行わなかった。

(2) 地域に密着した学習支援活動

- ・地域に密着した学習支援活動を行う機会が得られなかった。(同様記載 13 名)
- ・社会人向けの公開講座、高大連携講座はまだ行ったことがない。ただし NPO 法人活動を通じた地域支援活動は継続している。
- ・社会人向けの公開講座、高大連携講座の活動はありません。

- ・学内で学生対応や広報活動に費やす時間が多く、地域に密着した学習支援活動を行わなかった。
- ・本来の業務でいっぱい。

(3) 職能団体参画等の活動

- ・職能団体への参加・協力は特に行わなかった。(同様記載6名)
- ・職場の所在地と住居の住所地との距離があることが積極的ではなかった一要因である。
- ・担任としての学生指導，講義準備，国試対策準備，委員会活動などにより時間的な余裕が無い。
- ・大阪府言語聴覚士会の下部組織である北ブロックのブロック長をしているが、今年度は具体的活動はしなかった。日本言語聴覚士協会 基礎講座講師養成研修会に参加した。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

※Cの自己評価無し。